

女子部 高等科

「2019年度学業報告会ドキュメンタリー制作」

瀬瀬あや 鈴木雄紀（文責）

2019年度の女子部の学業報告会では、高等科は17のグループに分かれ学習を行い、その中にはこれから先の自由学園の学び方について考えているグループもいくつかあった。本グループは、当日の発表だけでなく各グループの学びのプロセスを記録したい、今後自由学園が変わっていく中で、どのような議論が生徒の中でなされたのか後世に伝えたいという動機のもと、学業報告会のドキュメンタリー映像の制作を目指した。撮影、編集にあたっては卒業生で映画監督の瀬瀬あやさんにご指導いただいた。当日は各グループの内容について生徒と教員が紹介する動画を作成し展示ブースで上映した他、当日の発表、会場の様子の撮影も行った。報告会後には編集を行っており、既に完成した作品もあるが、いくつかの作品については今後も編集を行っていく予定である。

I. はじめに

2019年度の女子部の学業報告会では、2017年度の流れを継承し、中等科は学年ごとに3グループ、高等科は17のグループに分かれ学習を行った。各グループで主体的な学びが行われていたが、グループ数が多くなったこと、学外の講演やフィールドワークに参加することが増えたことなどから、各グループの学びのプロセスを共有することは難しくなった。そのため、各グループが当日の発表に至るまでの記録を映像として残し共有したいと考え、本グループの立ち上げが行われた。

また、2019年は高橋和也学園長より共生共学化についてのアナウンスが生徒に向けて行われたこともあり、学業報告会の中でこれから先の自由学園の学び方について考えるグループもいくつかあった。本グループの生徒の中にも、自由学園が新しい形になっていく中で、生徒がどのように考えていたか、その足跡を残していきたいという思いが強くなり、学業報告会の記録という側面だけでなく、学園の歴史を語る一つの資料としての映像制作を目指した。

II. 報告会までの学習

撮影、編集にあたっては卒業生で映画監督の瀬瀬あやさんに何度も学校に来ていただきご指導いただいた。

はじめに、一般的なドキュメンタリー制作の流れと、ドキュメンタリー制作にかかわる職種について学習を行い必要な機材を用意した。

今回、撮影、編集に利用した機材は以下のとおりである。

- ビデオカメラ：FDR-AX45
- ガンマイク：AT9944
- 編集用パソコン：MB-N520XB-M2SH2
- 編集用ソフトウェア：Filmora9

学業報告会の準備風景の撮影に入る前に、撮影、編集の練習のため、9月15日（日）に行われた野の花祭に向け、女子部を紹介する動画として、「労作の様子」「委員長の一日」「食堂のタイムラプス」の3本の映像を制作した。野の花祭に向けた映像の制作にあたっては、企画を立てるということについて、次の4つ視点を生徒と考えながら行った。

【なぜ？】

- なぜ映像にするのか（文章や絵や写真ではなく）
- なぜドキュメンタリーなのか（CMやドラマではなく）
- なぜ“わたしたち”が作るのか（今、自由学園女子部で学んでいるわたしたち）

【何を？】

- ・この映像を通して伝えたいことは何か
- ・テーマは何か→何を撮るか、誰を撮るか

【誰に？】

- ・誰に見てほしいのか

【どんなふうにする？】

- ・何分の映像にするのか
- ・完成日までのスケジュール

野の花祭に向けての映像制作は、2学期に入ってから行ったため、撮影、編集合わせて2週間という短い期間で行うことになったが、「カメラを通して普段の日常を改めて見直していく」ということを意識し、「わたしたち」の視点とは？」という問いを持ちながら撮影、編集を行ったことは、学業報告会の映像制作の練習としてはよい機会であった。

III. 報告会への準備

野の花祭後から本格的に学業報告会の準備が始まったが、まずは野の花祭に上映した映像を見返し、あらためて撮影した映像を見たときに、どのような印象を持つのか、これを初めて見た人にはどのように伝わるのかを、話し合う時間を持った。

その後、本格的に撮影を行う前に、生徒たちに以下の項目に上げるようなことを投げかけ、考える時間を持った。

- ・「記録する」ということの責任
- ・カメラを向けることによる相手との関係性を考える
- ・何を撮るのか（表面的、説明的な映像ではないものを目標にできるのか）
- ・グループで映像制作する、ということの意義
- ・PC やカメラを扱う際の注意を再確認する

これらのことを考えた後、撮影の準備に取り掛かった。今回は、ビデオカメラ2台を使って撮影を行ったが、すべてのグループの撮影を満遍なく行うことは人数やカメラの数の問題から難しかったため、「未来の自由学園を考える」「さまざまな障がいについて考える」の2つのグループを中心に取材することとした。

撮影する際のポイントとして、次の6点を事前に確認してから撮影を行った。

【撮影する前に】

- ① 撮影する対象の情報を事前にできるだけ収集する
 - ・撮影場所
 - ・人数
 - ・進行内容、目的
 - ・ポイントになりそうな人物、出来事など
- ② どのように撮影したいかイメージする
 - ・絵としてどのようなカットを撮るか
 - ・今回の撮影のポイントは何か、見せ場は何か（人物、内容など）

【撮影時】

- ③ はじめを撮る
 - ・開始時間が決まっているものは余裕を持って入り、はじまりから撮影する。
- ④ 状況説明の映像
 - ・今、目の前で行われていることを説明するカットの撮影（場所全体の引きのカット、メンバーが分かるカット、進行状況が分かるようなカット、作業があればそれが分かる具体的なカット）
- ⑤ 本質を探る映像＝目に見えないものを撮る
 - ・今、目の前にいる人たちの内面でどのようなことが起きているのか、人物を観察し手掛かりになるものを撮影する
- ⑥ 能動的に撮る
 - ・カメラの前の人たちに話しかける、質問する、あらためてインタビューする

今回、撮影は女子部内だけでなく、「未来の自由学園を考える」では女子部・男子部合同で取り組む様子、「さまざまな障がいについて考える」では訪問させていただいたコラムニストの伊是名夏子さんのご自宅の様子、「現代の政治にどのように関心を持てるのか」では参加したデモの様子など、様々な場所に赴き撮影を行った。

また、準備期間中には主として撮影を行った2グループの撮影だけではなく、学業報告会当日に向け、

各グループの生徒と担当教員にインタビューを行い、撮影・編集を行って各グループの学習や活動内容の紹介動画を制作した。

編集も、瀬瀬さんに何度も見ていただきご指導いただきながら、作業を進めた。

IV. 報告会当日

報告会当日は、ステージ発表の様子やポスター発表での生徒とお客様のやり取りの様子、会場全体の様子などの撮影を行った。また、2階の展示ブースでは、各テーマの紹介動画の上映を行った。

V. 報告会を終えて

報告会当日まで撮影を行ったため、編集作業は学業報告会後に行うこととなった。作業は主に解散後や休日に行われ、完成した動画もあるが、新型コロナウイルス感染症による休校に伴い、すべての動画を完成させるには至っていない。今後の進展に期待している。

動画サイトの普及により、映像に触れることが非常に多い時代であるが、今回の学業報告会の学びを通して、映像というものを改めて考え直すとともに、撮影や編集を通して、生徒たちは自分たちが学ぶ自由学園自体を新たな視点から考えることになったと感じる。以下、高等科1年生の感想を抜粋する。

「私達のグループは、未来の学園生のための記録映像を作成しています。今回の学業報告会では、これから先の自由学園の学び方について考えているグループが多く、その中でも、もし学園の今のかたちが変わったとして、なぜそのような新しい学び方になったのかが分かる記録と、今の学業報告会はどのように準備・発表しているかが分かる記録を作るために、いくつかのグループをピックアップし、撮影することにしました。

自分達で編集作業をする中で、どのような映像が編集しやすいか、どのような撮り方が見ている人に伝わりやすいかなどが分かるようになり、次の撮影に活かし、より良い映像を作ることができています。

撮影する中で、男子部と女子部のディスカッションや、校外に見学などに行くときに、私たちも加わることがあり、その中で普段意見を言わない人が自

分の気持ちや考えをはっきりと伝えていたり、あまり話したことがない他学年や男子部生と話す機会があったり、新しい学園を見る事ができ、このグループに入ることができ本当に良かったと思います。」

最後に、学業報告会当日の瀬瀬さんの講評の言葉から一部を紹介させていただく。

「最初にグループの皆さんにお伝えしたのは、まずは映像というのはとても自由で楽しいものだという事です。こうあるべきとか、こうしなくてはいけないというのはなく、撮りたいと思ったものをどうしたらよく撮れるかとか、どうしたらよく伝えられるかということは考えて作る必要があるけれども、皆さんがいいと思うもの、大切だと思うことを撮るといえることができるということ。また、映像というのは、カメラの録画ボタンを押せば何でも撮れてしまうので表面的なものは色々撮れるけれども、その一歩先、映っている人の内面や、起きている出来事の本質などが映像に映りこむかということに気にかけてもらいたいということ。そして、この映像は女子部の大切な記録になっていく、その記録を自分たちが残していくという意味で皆さんの回しているカメラの映像は大切にすることをお話してスタートしました。

今回の映像の学びは大きく分けて2つあったと思います。1つは、グループメンバーで、映像作品を作るというプロジェクトを進めていく学びです。映像は最終的な作品になるまで沢山の工程を踏んでいきます。最初に目的を明確にし、目的を叶えるための映像をどう撮るか考え、何を撮るか決めたら撮らせてもらう人と交渉したりする。映像制作では、常に相手の都合に合わせて動いていきます。それを女子部の忙しい生活の中でやりくりしながら、それぞれのグループの都合に合わせて動きカメラを回す。そして撮ったものを整理し、編集し、書き出しをして、皆さんに見ていただける場を作る。このプロジェクトとしての映像制作に関して本当にびかーの力があると思いました。一つの全体の完成形をイメージして自分たちが何をしなくては行けないか、それも一人ではなく役割分担をして進めていくということを自然とできていることに興味します。

これは普段の自由学園での生活で日々協働しながらいろいろなことを進めているということが映像に移行しただけで、実は皆さんがとても得意とすることではないかと思いました。

2つの学びのもう一つは実はこれからです。今、撮っている映像を編集することです。撮った映像をよく見て、よく聞いて、よく感じ取ってそれをどういう風に他の人に見せられるかということを考えること、それがもう一つの大きな学びです。

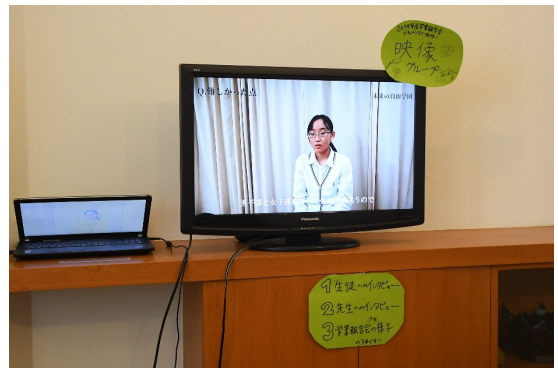
映像を見る人は、映像に映っている色々な情報を受け取るというようで、実はもう一つ、それを撮っている人たちの、どうしてそれを撮っているかという思い、伝えたいという思いを受け取っています。このグループの6人はその伝えたいという思いを明確に持っているということに希望と可能性を感じています。」

VI. 終わりに

今回、お忙しい中、熱心にご指導下さいました頼瀬あやさんに心より感謝申し上げます。また撮影にご協力いただいた、伊是名夏子さん、シーラカンズK&Hの方々、東京理科大学工学部建築学科の方々、ほか皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



映像確認の様子



学業報告会当日に上映した各テーマの紹介動画



撮影の様子



編集の様子



学業報告会当日の頼瀬さんによる講評